

「AIエージェントは一体どのようなものか」

- AIエージェントの未来
- 人間とAIが共存する新たな働き方
- AIエージェントの具体的なユースケース
- AIエージェント基盤サービスにおける日本企業に適した独自機能

講師 (講演順)	(座長) 東京大学大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 教授	森 川 博 之 氏
	大阪大学 先導的学際研究機構 教授	栄 藤 稔 氏
	日本電気株式会社 データサイエンスラボラトリー 所長	花 沢 健 氏
	株式会社NTTデータグループ 技術革新統括本部 AI技術部 課長	大 木 環 美 氏
	エムシーディースリー株式会社 取締役AI事業カンパニー長	河 内 伸 学 氏
	エムシーディースリー株式会社 AI事業カンパニー	青 木 千 隼 氏

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-00036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F TEL 03(6416)0190(代) FAX 03(6416)5351

「マルチメディア推進フォーラム」のご案内 明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、いままですら気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになっている。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信（機械と機械の通信）と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不十分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になろう。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいようお願い申し上げます。

■「マルチメディア推進フォーラム

—— P A R T 982 ——

開催内容
(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「AIエージェントは一体どのようなものか」

日 時 2025年 7月 25日 (金) 13時00分～17時00分

時間	講演内容	講師
(本フォーラムの趣旨・論点) ● AIエージェントの未来 ● 人間とAIが共存する新たな働き方 ● AIエージェントの具体的なユースケース ● AIエージェント基盤サービスにおける日本企業に適した独自機能		
AI技術の急速な発展により、AIエージェントはビジネス領域で革新的な役割を担う存在として注目されています。従来の生成AIとは異なり、AIエージェントは自律的にタスクを遂行し、多様なリソースを活用して最適な解決策を導き出す高度な知的システムです。その本質的な特徴は、目標達成のために必要なタスクを自律的に判断・実行できる点にあります。 AIエージェントは「パーソナルエージェント」と「企業エージェント」の2つに分類され、個人のスケジュール管理から企業の業務最適化まで幅広く活用されています。特に、デジタル化とグローバル化が進む現代において、企業の迅速な意思決定と業務効率化に不可欠な存在となっています。 ビジネス分野ではカスタマーサポートの自動化やデータ分析、医療分野では診断支援や創薬、金融分野では不正検知や資産運用の最適化に活用されています。さらに、製造業では異常検知や予知保全、物流・小売業では需要予測や在庫管理、教育では個別最適化された学習支援、ロボティクス分野では自律走行車やスマートアシスタントとして実用化が進んでいます。 また、AIエージェントはウェブ検索、外部API、データベースなどを活用し、能動的にタスクを遂行できる点が特徴です。企業にとっては単なる業務自動化を超え、戦略的意思決定を支援するツールとしての可能性を持っています。 しかし、AIエージェントには課題も多く、認識や理解の限界、推論・意思決定の難しさ、データのバイアス、新しい情報への適応の遅さが指摘されています。さらに、誤情報の生成（ハルシネーション）、データ漏洩、悪用のリスクも無視できません。実世界との統合においては、物理環境の不確実性や他システムとの連携の難しさも障壁となります。 こうした課題を克服することで、AIエージェントは企業の生産性と創造性を大きく向上させる可能性を秘めています。AIと人間が協働することで、業務の効率化が進み、人間はより創造的な業務に集中できるようになります。特に「マルチエージェントシステム」の導入により、大規模プロジェクトの自動化と業務効率の飛躍的向上が期待されます。今後の進化によって、さらに複雑で高度な業務の自動化が可能となるでしょう。企業はAIを脅威ではなく協働のパートナーと捉え、戦略的な導入計画とリスク管理を通じてその可能性を最大限に引き出すことが求められます。 本フォーラムでは、このようなAIエージェントの現在と未来の姿について、専門家や現場の第一線で活躍する方々にお集まりいただき、議論していただきます。		
(座長) 東京大学 大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 教授 森 川 博 之		

13:00 ～ 13:10	(開催趣旨説明)	質疑 応答	森 川 博 之 氏 東京大学 大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 教授
13:10 ～ 13:30	(基調講演) 「AIエージェントの未来」 ●AIエージェントとは ●AIエージェントの未来	質疑 応答	栄 藤 稔 氏 大阪大学 先導的学際研究機 構 教授
13:30 ～ 14:35	「AIエージェントが切り拓く業務自動化と未来共創」 ●業務の自律化による生産性向上 ●セキュリティ分野におけるAIエージェントの活用 ●未来社会に向けたAIエージェントの展望	質疑 応答	花 沢 健 氏 日本電気株式会社 データサイエンス ラボラトリー 所長
(休憩) (14:35～14:45)			
14:45 ～ 15:50	「生成AIアプリケーションを誰でも開発できるAIエージェント基盤サービス」 ●SaaS型のAIエージェント基盤サービス「つなぎAI®」 ●認証認可 (SSO) やロール権限など日本企業に適した独自機能 ●出張計画・旅費申請・精算・審査のAIエージェント開発検証	質疑 応答	大 木 環 美 氏 株式会社NTTデータ グループ 技術革新統括本部 AI技術部 課長
(休憩) (15:50～15:55)			
15:55 ～ 17:00	「最新のAIエージェント技術」 ●AIエージェントの具体的なユースケース ●業務を自動化するAIエージェントの現在地や将来像 ●AIエージェントを始めとしたAI活用やDX推進の企画から効果検証まで 協働する「伴走支援サービス」	質疑 応答	河 内 伸 学 氏 エムシーディース リー株式会社 取締役AI事業カン パニー長 青 木 千 隼 氏 エムシーディース リー株式会社 AI事業カンパニー

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

委員長				「マルチメディア推進フォーラム」委員会				(順不同 敬称略)			
齊藤 忠夫		東京大学		名誉教授		稲葉 陽子 (株NTTデータグループ)		技術革新統括本部		イノベーション技術部長	
(運営諮問委員会幹事)								取締役執行役員専務			
代表幹事								代表取締役 副社長執行役員 兼 CTO			
齊藤 忠夫		東京大学		名誉教授		吉村 和幸 KDDI(株)		工学系研究科 特任教授			
副代表幹事								代表取締役社長			
服部 武		上智大学		理工学部 客員教授		宮川 潤一 ソフトバンク(株)		特別顧問			
森川 博之		東京大学		大学院工学系研究科電気系工学専攻 教授		石原 直 東京大学大学院		取締役 会長			
成宮 憲一		一般社団法人				浅見 徹 (株)国際電気通信基礎技術研究所		執行役 Corporate EVP 兼			
		科学技術と経済の会		専務理事		遠藤 信博 日本電気(株)		テレコムサービスビジネスユニット長			
幹 事											
尾上 誠三		国際電気通信連合 (ITU)		電気通信標準化局長		高木 康志 富士通 (株) SVP システムプラットフォームBG エグゼディレクター		事業部長			
川野 真稔		総務省		国際戦略局 技術政策課長		石田 貴一 (株)日立製作所		副社長執行役員			
間宮 淑夫		内閣官房		内閣審議官		伊藤 明男 (株)日立国際電気		代表執行役員社長			
渡邊 昇治		経済産業省		商務情報政策局 総務課長		加茂下哲夫 /アソリューションズ&ネットワーク(株)					
西尾 崇		国立研究開発法人 土木研究所				(主な設立発起人)					
				戦略的イノベーション研究推進事務局 次長		齊藤 忠夫 東京大学		名誉教授			
立川 敬二		(株)ハイテック・推進研究所		取締役・特別顧問		吉川 弘之 東京大学		元 総長			
				(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)		立川 敬二 (株)ハイテック・推進研究所		取締役・特別顧問			
伊藤 寿治		日本放送協会		技術局長				(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)			
川添 雄彦		日本電信電話(株)		代表取締役副社長				元 政務調査会 調査役			
星野 理彰		東日本電信電話(株)		代表取締役副社長		杉本 榮一 自由民主党					
</											